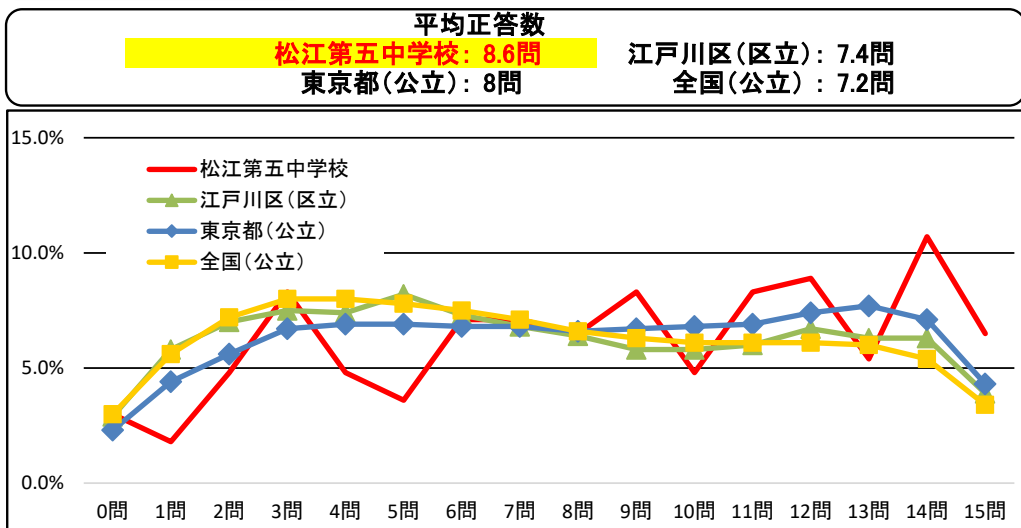


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】 松江第五中学校

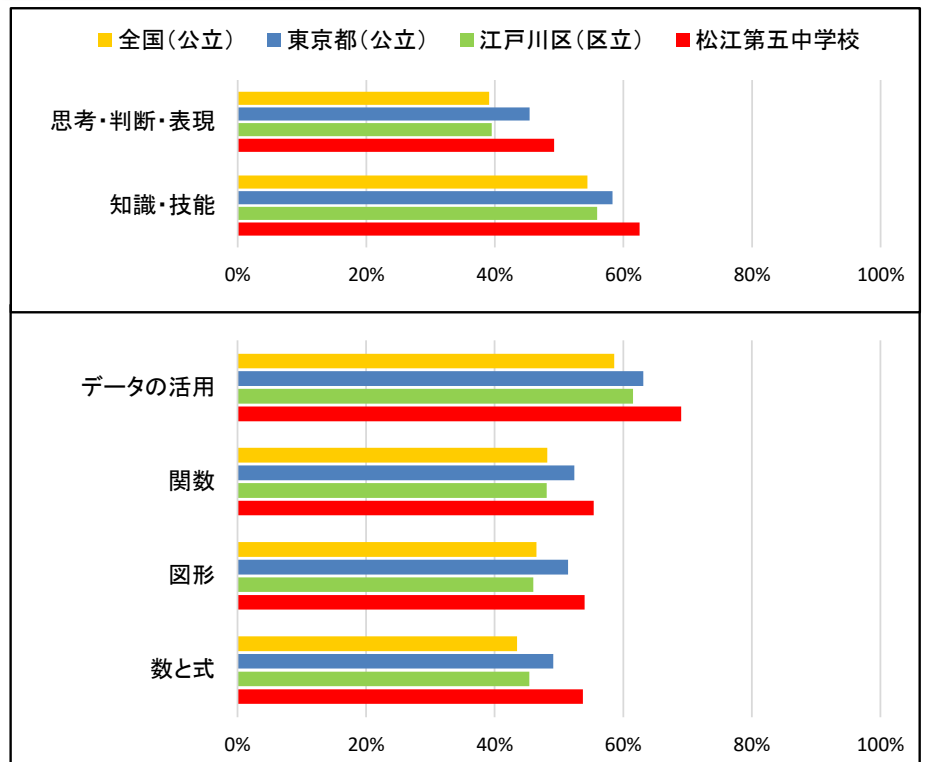
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

松江第五中学校	57%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	4.0

「領域別」の結果

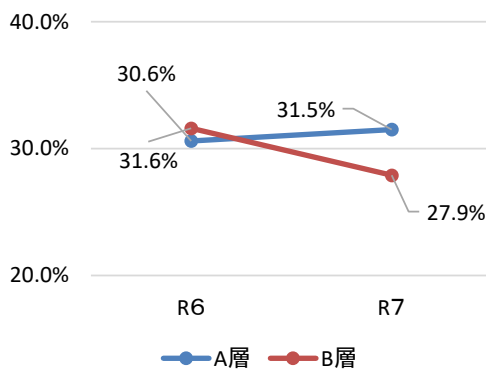


四分位における割合(都全体の四分位による)

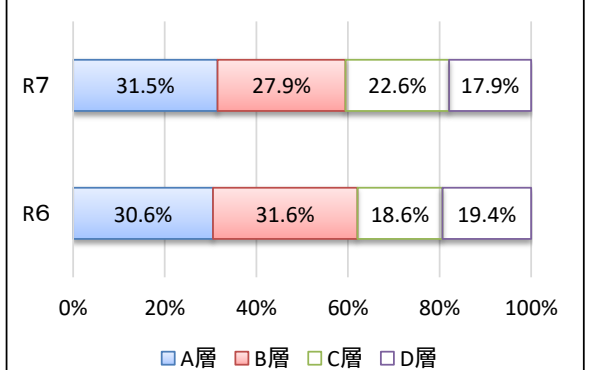
数 学	上位 ← → 下位			
	A層 12~15問	B層 8~11問	C層 4~7問	D層 0~3問
松江第五中学校	31.5%	27.9%	22.6%	17.9%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

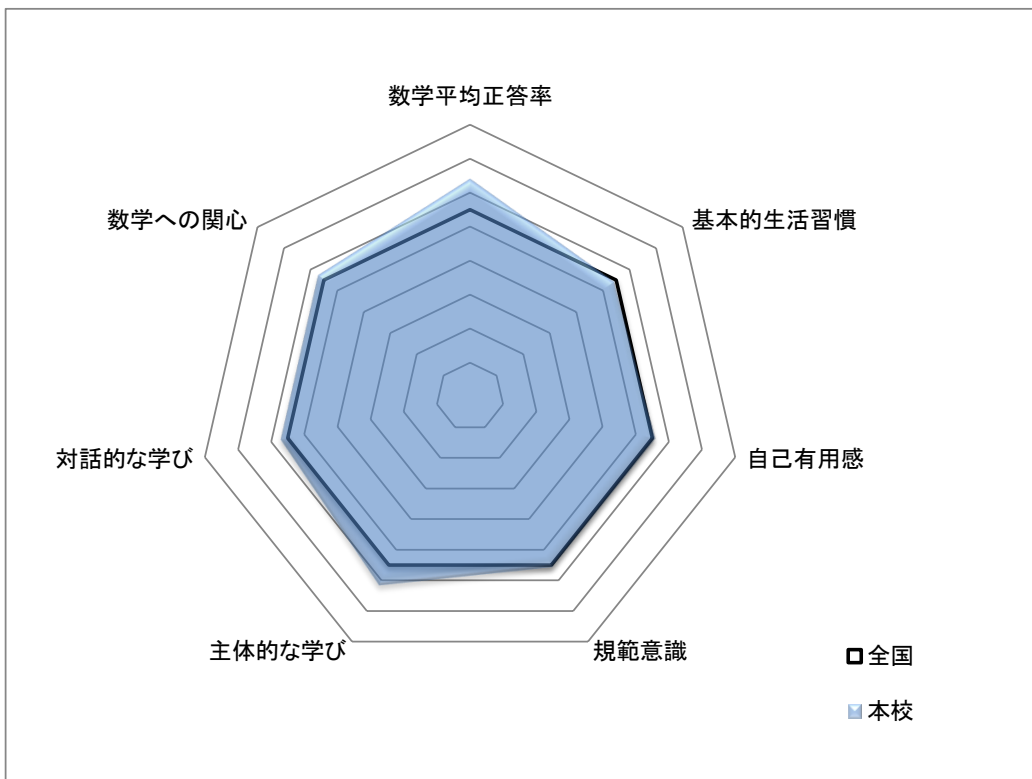
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

すべての項目において全国のチャート以上の数値となっている。とりわけ、「平均正答率」と「主体的な学び」の値が大きく上回っていることが読み取れる。この2項目に関しては相互に影響しており、今後の授業においても重要視するべき項目であると言える。

《家庭・地域への働きかけ》

基本的学習習慣及び、自己有用感の値を向上させるために、十分な睡眠時間の確保、スマートフォンやゲームの時間管理・ルール決りを各家庭でも指導していただくようお願いする。また、学習の成果に対して褒めたり励ましてあげることが学校と家庭の両方で意識していくことが重要であるとする。

《現状把握》

本校のAB層は合計で59.4%であり、全国と比べると13.4%も高い数値である。平均正答率も全国と比べて4%高い数値である。また、A層の割合が最も多く、D層まで順に少なくなっている。このことから、全国的に見て本校の生徒は学習内容が定着している生徒の割合が多く、学力の二極化も起こっていないと分析できる。本校では習熟度別のクラス編成を行い、「知識・技能」を定着させる取り組みに成果があったと考えられる。一方で、都や全国と同様に「知識・技能」よりも「思考・判断・表現」の観点の問題の正答率が低くなっている。計算や問題が解けるようにするだけではなく、他者への説明や発表の機会を増やすことが必要だと考える。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

数学科同士でお互いの授業を見合う、授業内容の相談・検討をこまめに行い、日々の授業づくりに生かしていく。また、できる範囲で単元テストを行い、生徒の理解内容を細かく把握することで、授業改善につなげていく。

・基礎学力の保障

習熟度別の少人数授業形態を活用し、各習熟度に合わせた演習問題の選定を行う。また、授業の冒頭で前時までの内容を復習する時間を設ける。そして、必要に応じて、放課後に質問を受け付けたり、補習の時間を設けたりするなどして基礎学力の定着を図っていく。

・学習習慣の確立

定期考査前だけでなく、定期的な復習の必要性や有効性を根気強く指導し、家庭での学習時間が増加するように指導していく。また、副教材の問題集を使用し、学習に取り組む機会を与えることによって学習習慣の確立を目指していく。

・AB層の育成

習熟度別の少人数授業形態を活用し、生徒がより興味をもてるような導入課題の選定や、課題解決型の授業を計画する。それにより問題を解くだけでなく、身の回りの問題に数学を活用しようとする姿勢を身に付けることを目指していく。